

その時あなたは大丈夫

揺れがおさまったら

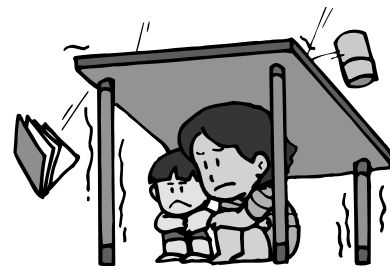
- 家族の安全確認
家具などの下敷きになっていないか確認
- 火元の確認
ガス栓を閉め、ブレーカーを落とす。火が出ている場合は落ち着いて初期消火。天井まで火が回った場合はすぐに避難する
- 靴を履く
ガラスの破片などから足を守る
- 隣近所へ声をかける
けが人などがいないか声を掛け助け合う
- 電話は使わない
緊急連絡電話が優先です。安否確認は「災害伝言ダイヤル」「災害用伝言板サービス」等を利用する
- 正しい情報を得る
ラジオや防災行政無線で情報を確認し、デマに惑わされない

避難するときは

- 避難は徒歩で
- 壊れた家には入らない
- 狭い道路、塀ぎわ、がけ、川べりに近寄らない

グラツときたら

- まず安全な場所に
衣類やクッション、鞆などで頭を保護し、丈夫な机などの下に潜る



- 火の始末
コンロや暖房器具を切る。無理はしない



- 玄関の扉や窓を開ける
ゆがんで逃げ場を失わないよう脱出口を確保
- 揺れの最中や直後は屋外に飛び出さない
落下物で怪我をする恐れがあります

地震から身を守る



ですか？



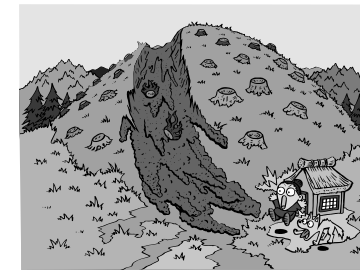
防災のポイント

- ① 非常持ち出し品や備蓄品を揃えておく
- ② 避難場所を確認しておく
- ③ 家族との連絡方法を確認しておく

土砂災害の前触れに注意する

次のような減少に気付いたらすぐに避難してください。

- 雨が続けているのに川の水位が下がる
- 山鳴りがする
- 小石がバラバラ落ちてくる
- 崖からの水が濁る
- 斜面にひび割れ、変形がある



避難するときは

- 長靴は水に入ると歩きにくいのでいつもの運動靴をはく
- はぐれないようにお互いの体をロープで結ぶ
- 側溝・マンホール等のふたが外れ転落の危険があるため棒などで足元を確認しながら歩く
- 歩ける深さは男性70cm、女性50cmが目安です。水深が深い場合は無理せず高所で救助を待ちましょう

日頃からの備え

台風対策中の事故が多く発生しています。接近してからの対策は危険ですので、対策は日頃から行っておいてください

- 屋根にひびがないか、排水溝につまりはないかなど、家の周りを点検してください
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを用意してください
- 貴重品などの非常持出品を準備してください

風水害の恐れがある時は

- 注意報や警報が出た場合は、早めに対策・避難してください

注意報→災害が起こる恐れがある

警報→重大な災害が起こる恐れがある

大雨による災害

10~20mm	長く降り続けば注意が必要
20~30mm	側溝や下水が溢れ、小さながけ崩れが発生
30~50mm	土砂災害の危険がある所は避難の準備を
50~80mm	堤防の決壊や土石流が起こりやすくなる
80mm以上	大規模な災害が発生する恐れが強い

風水害から身を守る



日本は地形や気象などの自然条件から、地震や台風などによる災害が発生しやすい環境にあります。加えて、近年激しい気象現象が増加しており、一旦雨が降り始めると豪雨となる可能性が高くなっています。今年7月17日から鳥取県西部で降り続いた雨によって、町内でも多くの被害が発生しました。

地震や台風などの大規模災害は広い範囲で同時に被害が発生するため、消防や救急隊が速やかに駆けつけてくれる保障はありません。災害による被害を最小限に抑えるためには、第一に、住民一人ひとり自らの生命を自らで守り危険を察知して適切な行動をとる「自助」、第二に他人を助けられる状況にある住民が地域で助け合って自分たちのまちを守る自主防災組織などの「共助」、これに、行政や消防などの「公助」の連携が必要です。

これから秋にかけて迎える台風の前には、ぜひわが家の防災について考えてみてください。

南部町防災行政無線に注意してください 緊急時の情報伝達を行う大切な設備です



緊急時には防災行政無線を通じて避難の呼びかけなどを行います。テレビ・ラジオと共に無線放送にも注意してください。また、いざという時の故障を防ぐために、ご家庭の戸別受信機を定期的に点検してください。

- ① ご家庭の受信機の乾電池を1年に1回は交換してください。
- ② 受信機は乾いた布で拭くか、パソコン用のエアクリナーでほこりを取り除いておいてください。

不安を感じたら、早め早めの行動を

米子消防署南部出張所 船木慎吾所長



いつ起こるかわからない災害時の

迅速な行動は、日頃の備えがなくては不可能です。日頃の準備によって災害に強いまちがつくられます。

そのためには、行政や消防などの連携と、個人や家族を中心とした地域、両方の備えが重要です。

災害から身を守り、被害を防ぐため、次の点を心がけてください。

・テレビ、ラジオ、防災行政無線などによって、正しい情報を得ることで。地震は発生を予見することは困難ですが、風水害の場合、かなりの情報を事前にテレビなどから得ることができません。常に天気予報や警報・注意報に気をつけ、最新の情報を聴くよう心がけてください。

・災害時には、危険な場所には近づかないようにし、1人で行動しないようにしてください。鳥取県内でも数年前の大雨で、田んぼの水を見に行つて流される事故が発生しました。増水した小川や側溝などは、境界が見えにくくなり転落事故が起こりやすくなります。

・避難の呼びかけを待つのではなく、不安を感じたらすぐに避難してください。7月の大雨でも、九州で行政から避難の呼びかけが行われましたが、お年寄りなど素早く移動することができない方が取り残される事態が起こりました。また、避難場所や経路を日頃から確認しておいてください。

・土砂災害などは泥水が出るなど、普段とは違った前触れがあります。前触れに気づいたら、まわりの人に知らせて一緒に避難してください。自分の住んでいる地域で、過去に洪水やがけ崩れ、地震などの災害が発生したことがあるか、どのよ

うな危険があるか調べておきましょう。災害を知ること、いざという時の自分の行動を確認してください。

災害が発生した時、発生のおそれがある時、一番大切なことは、自分で判断することです。消防や行政にも限界があります。「自分の身は自分で守る」という皆さんの自主的な判断と行動によって、被害を未然に防ぐことができます。

また、災害時、災害の危険を感じた時はすぐに消防や行政にご連絡ください。早めに不安をうったえていただくことで、迅速な対応ができるようになります。

農業施設の災害防止を

農業施設の災害を防ぐため、日頃から十分注意してください。

- ・ため池の堤体に草木が茂っているとひび割れや漏水が見つけにくく、地盤を緩める原因となります。日頃から草刈をしてください。堤体に異常がある場合は、速やかに連絡をお願いします。
- ・排水路やため池の水路のごみなどを取り除いてください。貯水量を増やすために土のうを積み上げている場合は、雨の前に取り除いておいてください。土のうが積まれたままだと、人的被害と見なされ災害が発生しても復旧事業の対象となりません。
- ・せきの排水吐で角落とし方式のものは、洪水時に操作できませんので、大雨の予報が出たら速やかに取り除いておいてください。

災害復旧の対象

現在耕作されている農地、ため池、頭首工、用排水路、農道

復旧対象となる条件

- ・24時間雨量80mm以上
- ・時間雨量20mm以上
- ・被災時の河川水位が警戒水位以上
- ・1箇所の工事費用が40万円以上
- ・農業用施設は利用者が2戸以上

農地災害が発生したら

すぐに建設課（TEL66-3115）までご連絡ください。期間が過ぎると復旧対象にならない場合があります。